

歴史・自然・市民を紡ぐ

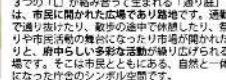
ケヤキに象徴される自然の美しさ、まちのあちこちから溢れ出る市民の活気。そして大塚神社を始めとする数々の歴史遺産。これら魅力の最大化する新庁舎を提案します。そこは、市民にとっても来訪者にとっても魅力的で誇らしい、府中の地でしか生み出し得ない庁舎になります。

■からみ合い噛み合う3つの「L」

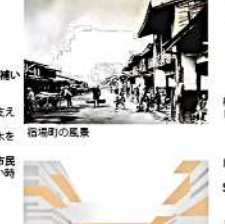


■広場としての「通り庭」

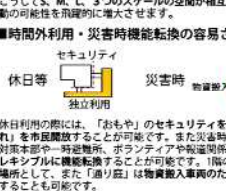
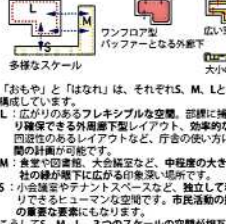
■路地としての「通り庭」



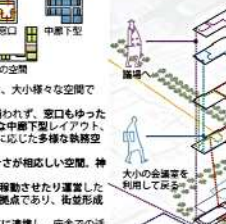
■軒が連なる「通り庭」



■フレキシブルな「おもや」 ヒューマンな「はなれ」



■まちの回遊性の結節点として



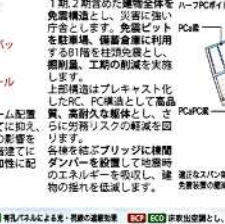
■周辺環境に配慮したボリューム配置



■合理的で安心な構造計画



■對話を通じた設計プロセス



■仮設庁舎のいらぬ合理的な建て替え計画

